

聖書: マタイの福音書5章1～12節

説教: 平和をつくる者は幸いです

はじめに

来る5月29日に2022年度信徒総会が開かれます。今年も昨年に引き続き、一つ所に集まっての開催は難しいと判断し、表決書の提出で開催に代えさせていただくことにしました。皆様にお配りした総会資料にも記したとおり、2022年度の道標聖句としてマタイ5章9節のみことばを取り上げさせていております。

今ロシアとウクライナの間で戦争が続いていて、いつ終わるかは誰も見通せない状態です。それぞれどこか、「これは第三次世界大戦である」という人さえいて、ヨーロッパ全体に戦争が拡大する可能性さえつづやかれています。難しいことはわからないけれど、とにかく戦争が早く終わり、平和な世界が訪れて欲しい。世界中の人々が祈っています。教会も平和のために祈り続けています。それでこの箇所を選ばせていただきました。そこで今日は、平和をつくることとはどのようなことなのか、聖書の語りかけに耳を傾けてまいります。

1 平和

1) 戦争がない状態？

そもそも平和とは何でしょうか。みなさんはこう考えるでしょう。「戦争、争い、紛争、殺人、そのようなものがない世界、それが平和です。」もちろん間違いではありません。ではこれがすべてなのかというと、実はまだ足りないところがある。

たとえば「仮面夫婦」ということばがあります。表面的には一つ家のなかで生活し、近所づきあいも普通で、夫が妻に対して暴力を振るうわけでもない平和な夫婦に見えます。しかし、お互いの愛は冷め、信頼関係はとっくになくなって、冷たい戦争状態という夫婦があつたりする。争いがないから平和とは言いきれないことがこれでおわかりでしょう。では聖書で言う平和とはどのようなことなのか。もう少し深掘りしていきます。

2) 平和の定義

ヤコブの手紙3章17, 18節を開きます。「しかし、上からの知恵は、まず第一に清いものです。それから、平和で、優しく、協調性があり、あわれみと良い実に満ち、偏見がなく、偽善もありませ

ん。義の実を結ばせる種は、平和をつくる人々によって平和のうちに蒔かれるのです。」

ここで「平和」ということばが三度出てきて、その平和というものがどういう性質をもっているか、いろいろなことばで説明されています。上からの知恵。清い。優しい。協調性がある。あわれみ。良い実。偏見がない。偽善がない。義の実を結ばせる。先ほど取り上げた仮面夫婦の場合、このような性質はほとんどなくなってしまっている。聖書が語る本当の平和とは、ここに書かれているような性質を全部持っていることになります。

2 平和をつくる

1) 努力しても

聖書が語る平和というものが少し整理できたところで、9節を読みます。「平和をつくる者は幸いです。その人たちは神の子どもと呼ばれるからです」と言われました。

七十七年前、第二次世界大戦が終わったとき、人々はもう二度とこのような悲惨な戦争は繰り返してはいけないと反省し、国際平和を維持するために国連という組織をつくったと言われます。ところがご存じのように、その国連がいま十分に機能を果たすことができずに今回のような戦争が起き、止めることもできない状態です。人間の知恵では平和をつくることがいかに難しいか、多くの人たちが無力感を感じているのではないのでしょうか。

2) 争いの原因

いったいなぜ戦争は繰り返されるのか。私たちは簡単に、あの国が悪い、あの大統領が悪いと言いたくなります。もちろんそれは間違いではないでしょう。しかしそれがすべてなのか。

21, 22節を見てみましょう。「昔の人々に対して、『殺してはならない。人を殺す者はさばきを受けなければならない』と言われていたのを、あなたがたは聞いています。しかし、わたしはあなたがたに言います。兄弟に対して怒る者は、だれでもさばきを受けなければなりません。兄弟に『ばか者』と言う者は最高法院でさばかれます。『愚か者』と言う者は火の燃えるゲヘナに投げ込まれます。」

「殺してはならない。」これに反対する人は誰もいません。人間として守るべき人類共通の普遍

的基準だとだれもが認めます。では、これはどうでしょう。「兄弟に対して怒る者」は厳しくさばかれる。それも、実際に口で言うだけでなく、心の中で思っただけでもダメだということです。初めて聞く人は驚きます。

こういうことです。当たり前のことですが、人が何かをしたら、心にあることをします。人を殺すのは心の中でそうしようという何かきっかけ、あるいは動機があるからです。それは、例えば憎しみとか、ねたみ、プライドを傷つけられたという怒り、裏切られたことが赦せないという思い。争いの原因をたどると、結局私たちの心の内側にたどり着きます。そうしますと、もし本当に争いをなくし平和をつくらうとするなら、まず最初に、私たちの内側に隠し持っている苦々しい思いを取り扱わないといけないことになる。

3) 資格はあるのか

それはいやだ、面倒だと言ったならどうなるか。表では、戦争が早く終わり平和になるようにと祈っている。しかし裏側に回ると、誰かを憎んでいる。表と裏がまったく正反対のことをしている。これはおかしいですね。でもこれが人間の本当の姿です。こんなことを言われなくても気がついていられるでしょう。できるならそうしたい。しかし、人と和解できずに悩んでいる。それが現実です。そうしたら、いったい誰が平和をつくる、平和を祈り、つくる資格があるのでしょうか。

3 イエス・キリスト

1) イエスの性質

では、このみことばをお語りになったイエスはどのようなのか。語った本人であるイエスに平和をつくる資格がなかったというのなら、もはや聖書を読むのは意味はありません。もちろんそんなはずはない。この方には平和をつくる資格があるはずなんです。

そのことをどうやって確認するか。最初に読んだヤコブ書をもう一度見てください。真の平和には清いという性質があります。イエスはあるとき、ツアラアトに冒された人に触れながら「わたしの心だ。きよくなれ」と語ったところ、すぐにその人がきよめられて治りました。真の平和には優しいという性質がありますが、イエスは「わたしの心は柔和でへりくだっているから」と言われました。真の平和は、あわれみと良い実に満ちているという性質がありますが、ヘブル書にはイエスについて「あわれみ深い忠実な大祭司」と書かれていま

す。こうして見ると、すべての点でイエスこそが平和をつくる資格がある方だとはっきりわかります。

2) イエスがしてくださったこと

でも資格があるだけでは、まだなにも問題は解決しません。イエスはどうやって平和をつくられたのでしょうか。ヤコブ書に、真の平和は義の実と種を持っていると書かれていました。イエスは神の義をはっきりと示したために、人々から迫害され、十字架に追いやられていきました。

私たちは人を愛することができず、かえって人を憎んでしまい、神の義から遠く離れてしまった罪人だったのですが、この方の十字架によってこんな者でも罪が赦され、義とされていく。そのような救いを備えてくださったことによって、真の平和に至る道を開いてくださいました。この道は天の御国に通じ、神の子と呼ばれる幸いな道なのだと思います。

3) 幸いな者とするために

では私たちはどうしたらよいのか。そのことを考える手がかりとして3節を読みます。「心の貧しい者は幸いです。その人たちは慰められるからです。」ここにある「心が貧しい」ということばは誤解されやすい。一般には、「心の豊かな人」の反対の意味で使うことが多いでしょう。聖書が言う心の貧しさとは、これとはまったく違います。『私の中にはあるべきものがない』それがわかったときの悲しさ。そういう意味です。あるべきものとはなにか。正しいことです。人を憎んでいるのですから、正しいとは言えない。でも自分の力ではどうすることもできないと悲しむ。それが心の貧しさです。

平和をつくることは、この心の貧しさと関係しています。平和をつくる第一歩はどこから始まるか。私たちの中には正しいものがないという自覚。そのことを悲しむところからスタートしていく。

ところが今の時代、「ない」ということはマイナスの評価を下される。人よりも多く持っていることをよしとし、収入、学歴、家柄、肩書きで競うような世界をずっと生きてきました。ですから、「絶対に自分のマイナスなことは人に言わない。」そういう方がおられます。しかし神の前ではそんなことはしなくてよい。何も心配することなく、自由に自分の気持ちを伝えることができます。

そうしたら何が起こるのでしょう。「天の御国はその人たちのものだからです」とあります。あるべきものがないと告白する者こそが、天の御国に迎えられる資格がある。これは途方もない大きな約束です。その恵みの大きさが分かれば分かるほど、救われた喜びが大きくなっていきます。喜びがあふれてくると、その喜びをだれかに伝えたいと願わないでしょうか。あるいは、こういう思いをいただくかもしれない。私はあの人と争っていたけれど、もし和解ができるなら和解したい。そう思って、すぐに実行できる方がいる。あるいは、そう思ってもなかなか実行できない時もある。無理をする必要はないと思います。喜んでできるところから始めればよい。小さなことかもしれません。

しかしそれがこの世界に平和をつくっていく最初の大切な一歩になっていくのです。まるで海辺の砂粒を一粒一粒積み上げていくようなもので、この暴力が満ちる世界にどんな影響力があるのかと思うかもしれません。いいえ、決してそんなことはありません。というのは、神が始めてくださったことなのです。神が始められたことであるなら、それはもう人の業ではありません。私たちの人知を越えた大きな働きになるはずではないでしょうか。なにしろ、神は幸いなことだと言って励ましてくださるのですから。

平和が失われいく時代、私たちは神からいただいた恵みをもって平和をつくる者へと変えさせていただきたいと願います。